

地域での防災対策

自主防災組織とは

町や消防機関、警察機関は、総力を挙げて防災活動・復旧活動を行います。大地震や洪水が発生した場合、さまざまな悪条件が重なり、防災関係機関の活動能力は著しく低下することが予想されます。このような大規模災害が発生したとき、被害をできるだけ少なくするためには、住民の自主的な防災活動により被害の防止または軽減を図ることが重要です。災害に対して地域住民一人ひとりが、組織的に行動し、自分たちの地域は自分たちで守るという意識を持って行う共助の活動が自主防災組織です。

自主防災組織とは、行政区単位で結成され、地域の皆さんが連携して自主的に防災活動を行う団体のことをいいます。災害による被害を最小限におさえるためには、「自分たちの地域は自分たちで守る」という考え方が重要となります。

平常時

災害に備えるために、日頃から地域の皆さんに、防災知識・防災活動の必要性を理解してもらう活動を行います。

① 防災知識の普及と啓発

地域住民に防災知識を広め、関心を持ってもらいます。

② 地域内の安全点検

地域内の危険箇所や問題点を確認し改善します。

③ 防災訓練

災害に備え、消防署などの指導のもと訓練を行います。

災害時

人命を守り被害の拡大を防ぐために、地域の皆さんが協力して、火災の初期消火や負傷者等の救出・救護などを行います。

- ① 初期消火……… 消防機関と協力し、初期消火活動を行います。
- ② 救出・救助……… 負傷者などの救出・救助や、応急手当てを行います。
- ③ 情報の収集と伝達……… 防災関係機関と連絡を取り、情報を住民に伝達します。
- ④ 避難誘導……… 避難経路の安全を確認し、住民を避難所へ誘導します。
- ⑤ 避難所の管理と運営……… 避難所での食糧物資の調達と配分、給水活動を行います。

避難行動要支援者への協力

要配慮者（高齢者・障がい者・妊産婦・乳幼児・傷病者・日本語が不自由な外国人等）のうち、特に災害時の避難に支援を要する場合は、避難行動や言葉の理解などで大きなハンデを負うことになります。地域の皆さんは日頃からコミュニケーションをとりあって、災害時には相手に適した誘導方法で早めの避難ができるように協力しましょう。

当事者が備えるべき最低限のこと

- ・最低3日分の薬や処方せんのコピーを用意しておく。
- ・非常用持出品をすぐに持ち出せるよう近くに置いておく。
- ・自身の情報、支援者の連絡先やどういった支援が必要か記載したものを用意しておく。
(例：ヘルプカード、ヘルプマーク)

当事者の状況によって、対応も様々です。以下の点に注意して災害に備えましょう。

	当事者(家族)の備え	支援するときの配慮
肢体不自由	<ul style="list-style-type: none"> ・部屋の安全確保 ・助けを呼ぶ笛の常備 ・車いすの点検及び車いすが使えない時の備え(杖、担架、おんぶ紐等の用意) 	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉器具、非常用持出品の運搬 ・車いす等での移動の介助 ・介助方法を具体的に尋ね、「はい」「いいえ」で答えられる質問にする。
視覚障がい	<ul style="list-style-type: none"> ・家具の配置を常に一定にし、安全な空間を確保 ・避難経路の事前確認 ・非常用持出品(白杖、点字版、携帯ラジオは必須)の用意 ・盲導犬を連れている場合は、ドッグフードを多めに用意しておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・杖を持っていない側、盲導犬と反対側に立ち、肘の上をつかんでもらい、歩く速さを合わせる。 ・進行方向の状態をわかりやすく説明する。 ・盲導犬に声をかけたり、触れたりしない。



	当事者(家族)の備え	支援するときの配慮
聴覚障がい	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急時にはメモで情報を伝えて欲しいと伝えておく。 ・筆記用具、メモ用紙、ホワイトボードなどを用意しておく。 ・あらかじめ「メッセージカード」を用意しておく。 ・非常用持出品(笛、補聴器用電池)の用意 	<ul style="list-style-type: none"> ・サイレンも防災ラジオも聞こえないため、手話、筆談、口の動きなどで情報を伝える。 ・声が聞こえる場合は、はっきりと口を開けて、端的な内容でゆっくり話す。
傷病者	<ul style="list-style-type: none"> ・かかりつけの医療機関に災害時の対応について相談しておく。 ・薬や医療機材の確保 ・人工透析のかたは、受け入れ可能な医療機関の確保 ・病気についての手帳を詳細に記入しておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・携帯電話はペースメーカー等の医療機器に誤作動を生じさせる可能性があるため、適切な距離を保つ(20cm以上)。 ・本人や家族の依頼があれば、医療機関などへの連絡代行や、状況により処置の手伝いを行う。
知的障がい	<ul style="list-style-type: none"> ・家族や仲間とはぐれた場合について、前もって家族で話し合いをしておく。 ・支援が必要なことを書いた「ヘルプカード」等の携行を心がける。 ・避難所等での過ごし方を絵や短い文に書いて本人と一緒に確かめておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・不安になるような言葉を避け、「大丈夫だよ」等安心させる言葉かけを行う。 ・ケガや痛みがあっても伝えられない可能性があるため、よく確認する。 ・身の回り品や食べ物等への強いこだわりなどがあるため、理解しながら支援する。
精神障がい	<ul style="list-style-type: none"> ・健康保険証、おくすり手帳、精神障害者保健福祉手帳、自立支援医療受給者証(精神通院)を準備 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然な態度での声かけをする。 ・妄想や幻想のような話の場合でも、強く否定せず受容的な態度で向き合う。 ・薬の飲み忘れがないか見守る。
高齢者・認知症のあるかた	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃から地域とのコミュニケーションを取り、地域に理解してもらう。 ・認知症の場合、災害時にはストレスで症状が悪化する場合があるため、かかりつけ医と相談しておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・複雑な説明などは、理解が難しい場合があるので、単純な言葉で情報を伝える。 ・ペースを理解し、無理のない移動に配慮する。
妊婦・子どものいるかた	<ul style="list-style-type: none"> ・寝室やお昼寝の場所は、落下物や倒れてくる家具がないところにする。 ・物が散乱した時に備えて、寝室に靴を用意しておく。 ・避難施設を事前に確認しておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・当事者もほかの避難者に迷惑をかけないように緊張状態が続くため、周りの人たちが子どもの相手になるなど配慮する。 ・授乳や着替え、オムツ替えスペースを作る。 ・女性用品は人目に付かないところで配布。オムツや衣類などはサイズ別に配置。
外国人	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃から近所の人にあいさつをして、顔見知りになっておく。 ・パスポートや大事なものを持ち出せるように用意しておく。 ・災害で家財や車を失った時のために保険に入る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難施設を知らないかたが多くいるため、声かけを行う。 ・簡単な言葉やジェスチャーを使い危険であることを伝える。 ・翻訳アプリを使ってコミュニケーションが取れることもあります。 ・ひらがなやカタカナで書いて、分かりやすい表現を心がける。 ・宗教によって食生活の違いや風習があるため配慮する。

